

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標 (SDGs) とは、

2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル (普遍的) なものであり、日吉としても積極的に取り組んでいます。



株式会社日吉

<https://www.hiyoshi-es.co.jp/>

本社／〒523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄町908番地
TEL.0748-32-5111 (代表) FAX.0748-32-3339
E-mail : info@hiyoshi-es.co.jp/



東京支店／〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 赤坂RHビル
TEL.03-5772-6073 FAX.03-5772-6074

2020年6月発行

日吉のSDGs 未来に向かう

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

社会の「兆し」をはかる・みる・まもる
みんなの笑顔を技術でまもる

SDGsと日吉の活動

生活系廃棄物処理からスタートした創業当時、世の中の関心事は「衛生 (Sanitation)」でした。
それが高度成長時代に「公害 (Pollution)」になり、より幅広い「環境 (Environment)」へと移り変わりました。
現在は「生態 (Ecology)」,そして今後は「共生 (Symbiosis)」の時代となっていくことでしょう。
時代の移り変わりとともに、地域環境の改善・保全、次世代の環境啓発、環境技術の海外への展開、
そして持続可能な社会への貢献へと取り組んできました。
100年企業をめざす、日吉の持続可能性の取り組みはSDGsの取り組みでもあります。



日吉の四方よし

滋賀県発祥の近江商人の理念
「三方よし(売り手よし・買い手よし・世間よし)」を受け継ぐとともに、
次世代の人材育成に注力した「次世代よし」を加えた
「四方よし」の実践を目指しています。

人と社会と地球がつながり
安全・安心で豊かな社会へ

1955
衛生
Sanitation



- ・1955年創業
- ・廃棄物処理管理、浄化槽維持管理、分析測定などの環境サービス開始
- ・高速道路の上下水道施設維持管理を民間企業としては日本で初めて受託

1970
公害
Pollution



- ・琵琶湖富栄養化対策への石けん運動に科学的支援
- ・沖島浄化センター 運転維持管理開始



- ・小学校環境教育指導開始
- ・小学校教員ごみ収集体験

1990
環境
Environment



- ・インドで環境スピーチコンテスト開始
- ・小学校への環境啓発活動としてごみ収集車ペインティング開始
- ・技術者海外派遣

買い手よし
環境活動

世間よし
地域・国際活動

社 是
社会立社
技術立社

会社は社会に貢献しなければ存続できない。
またそれを支える技術をもってはじめて
社会に貢献できる。

売り手よし
事業活動

次世代よし
次世代育成活動

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

20xx
共生
Symbiosis



- ・沖島地域活性化参加
- ・社会福祉法人さくら会「さくらっこ保育園」設立支援
- ・経済産業省がんばる中小企業300社に選定
- ・次世代認定マーク「くるみん」取得
- ・滋賀県女性活躍推進二つ星「★★」企業に認定
- ・経済産業省 地域未来牽引企業に選定
- ・経済産業省 新・ダイバーシティ経営企業100選受賞
- ・将来世代応援企業表彰を受賞
- ・健康経営優良法人に認定
- ・環境省 環境 人づくり企業大賞 奨励賞を受賞



- ・東日本大震災復興支援を行う
- ・新潟中越地震支援を行う



- ・日吉環境大賞(日吉アワード)創設
- ・産学連携開始
- ・「環境少年団」(現:環境研修会) 環境学習支援
- ・第一回渋沢栄一賞受賞
- ・認定職業訓練施設「日吉塾」設立
- ・日吉インディア設立

2000
生態
Ecology

- ・国内インターン生受け入れ開始
- ・海外インターン生受け入れ開始



- ・(財)日本顕彰会(現:社会貢献支援財団)より表彰
- ・阪神淡路震災支援
- ・淡海フィランソロビネット加盟

日吉の歴史

時代の変化に伴う、国内外の環境課題に
独自の技術と経験を活かし解決に取り組んできました。

自然環境 ～日吉の専門技術と半世紀以上の経験を活かした取り組み～

水の衛生と豊かさ

6 水の再利用化

日吉の事業である、上下水道・排水処理施設の維持管理や、水道水の検査などは日常生活に欠かせない業務として、どのような状況でも休むことなく行っています。



14 新たな生物モニタリング手法

PCR検査により水中に残る生物の体液や鱗、糞便由来の「環境DNA」の分析を行い、生物の存在や生物量の推定が可能となり、生物多様性の保全へ配慮しています。

環境DNAによる固有種イケチョウガイの存在確認や外来種駆除による増減を確認しています。

eDNA protector®(保存液)の商標登録および関連特許出願中



14 国際問題 「プラスチックごみ」の実態調査

国際的な問題であるマイクロプラスチックごみの効果的な削減を検討するため、滋賀県より琵琶湖の実態把握調査を受託しました。



6 インド現地法人「日吉インディア」

現地法人日吉インディアにおける排水処理施設の維持管理を通して、水の汚染減少や水の再利用化に取り組んでいます。



14 特定外来生物の駆除

琵琶湖で大量繁茂する特定外来生物の水草オオバナミズキンバイを、毒性の低い除草剤で駆除する新手法を研究し、水質に影響を与えないよう、茎に直接注入する手法を検証しています。



14 沖島等 地域活性化の取組

日吉は「人が住む沖島・琵琶湖の漁業の存続」を目標に取組へ参加しました。外来魚の駆除と資源としての活用を狙った商品として、ペット用おやつ「おさかなまるごと」を考案し、販路拡大がなされています。



3 東南アジアにおけるダイオキシン汚染の調査

世界銀行プロジェクトにおいて、ラオスの土壌や母乳への枯葉剤汚染の影響調査、さらにカンボジア、マレーシアにおける魚中のダイオキシン調査を実施しました。



9 水質検査結果をWEB上で

WEB経由で水質分析結果の閲覧や管理等ができるデータ管理・解析サービス「アナレポ®」を独自開発し運営をしています。日本全国のお客様が手軽に利用可能で、手間削減やリスク管理に役立てられています。



持続可能な生産消費形態の促進

12 し尿汚泥肥料「稔」登録

し尿処理施設の維持管理において処理後に回収した余剰汚泥の水分をとばしてし尿汚泥肥料に改良することにより、汚泥焼却時に発生する二酸化炭素の排出を削減できます。農林水産大臣登録銘柄検索システムに、し尿汚泥肥料「稔」として登録されています。



12 グリーン購入の推奨

これまで20年継続して活動に参加・協力し、グリーン購入を推奨しています。



近代的エネルギーへのアクセス

7 エコカーの導入

営業車など20台以上を環境に優しいエコカーに切り替え。2012年には敷地内駐車場にエコカースタンドを設置しました。



7 パワームーバーを寄贈

予期せぬ災害等への利用を目的として、八幡小学校へ給電機「パワームーバー」を寄贈しました。



7 省エネへの取り組み

社員1人ひとりが意識し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

- ソーラーパネルの設置
- 二重窓の設置
- 過剰使用時の警報システム
- 電力使用量見える化



9 滋賀県低炭素社会づくり賞受賞

淡海環境保全財団より、2017年度 滋賀県低炭素社会づくり賞を受賞しました。弊社提供のダイオキシン類・簡易測定法ケイラックス®アッセイが、従来の高分解能ガスクロマトグラフ質量分析計法によるダイオキシン類測定と比べ、温室効果ガス発生が軽減された商品技術であることより受賞しました。



社会貢献 ～日吉の経営理念による長年の取り組み～

第1回 渋沢栄一賞を受賞

2002年鈴木稔彦社長(当時)が、社会貢献活動に尽力した企業経営者に贈られる第1回「渋沢栄一賞」を受賞した。アジアをはじめとする海外から、多くの外国人研修生を受入れ技術習得に協力している他、地域貢献として、小学校での環境教育への支援などに顕著な実績が評価されました。



琵琶パール®の養殖で 地域事業の活性化

2019年よりイケチョウガイからとれる琵琶パール®の養殖をおこない、琵琶湖固有種の保護に取り組んでいます。



被災地の支援・災害への備え

災害の復興支援

●新潟中越地震・東日本大震災ではバキュームカーによるし尿収集支援を、また水道水の消毒液1トンを寄贈しました。

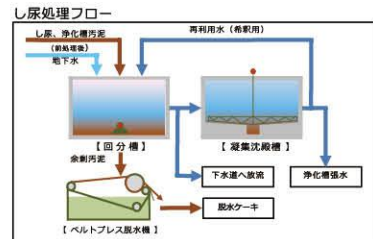


新型コロナウイルス支援

●近江八幡市へアルコール消毒液を40L寄贈し、児童クラブにてご活用いただきました。

し尿「一時貯留保管施設」の整備

老朽化を理由に休止していたし尿処理施設を「回分式脱窒・脱リン高度活性汚泥施設」として、さらに災害時のし尿一時保管施設として利用できるよう提案・改修しました。



働き方 ～働きやすい職場環境を目指して～

雇用の多様性の確保



女性・障がい者 外国人の積極的雇用

外国人
●日本人との労務条件差別は存在せず、管理職にも従事
●多言語マニュアルの導入などでサポート

女性
●女性の管理職への起用
●インターネット会議の導入による在宅勤務制度
●小学校就学始期までの時差出勤制度
●ライフステージに応じた柔軟で選択肢の多い職場環境づくりの促進

障がい者および疾病社員
●制度に先駆け、個別事象に対し、勤務時間等柔軟な対応を実践



ワーク・ライフ・バランスへの評価

滋賀県内のサービス業で初めて次世代育成支援対策推進法「くるみん」認定を受けました。



産休・育休制度の他、フレックス制度の調整などを積極的に行ったことが評価されました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止及び社員の安全のため、リモートワークなど柔軟な働き方に対応している。



保育園の設立支援

日吉は、2012年認定保育園「さくらっこ保育園」並びに2016年「さくらの樹保育園(小規模保育園)」を設立より支援しており、働き方の多様性を目指しています。

労働安全衛生

健康経営優良法人として認定

社員の安全を守るための特殊健康診断、メンタルヘルスケア対策および心療内科専門産業医によるカウンセリング対応という、ダブル体制等が評価されました。



次世代育成 ～環境保全の世界基準を目指した取り組み～

国際

インドでスピーチ コンテストを開催

1995年より開催しているスピーチコンテストは、インドにおける環境問題を提議することを目的に、日吉がスポンサーを務め開催しています。



36カ国より海外研修生の受入れと技術者養成

1989年より36カ国1000名以上の受入れを行っており、彼らの多くは環境エキスパートとして各国で活躍しています。



世界各国と共同研究を実施

国内外の大学や研究機関と、POPsやダイオキシンをはじめとした80以上もの共同研究をこれまでに進めてきました。



地域

インターンの受入れ・大学と協定を連携

小学生から大学生までインターンを受入れ、最先端の現場でのインターンシップを経験してもらっています。また、大学との連携・協定を通して環境分野のデータサイエンスによる地域経済の活性化・地方創生に寄与しています。



地元の小学生へ環境学習を実施

毎年、地元の小学生を対象に日吉の新入社員が協力し研修会を実施しています。子供たちに琵琶湖の生態や身近な環境問題を伝え自分に何ができるかを考えてもらっています。



地元小学生による 廃棄物収集車へのペイント

これまで20年以上、近隣市町の小学4年生を対象に環境ごみ学習を実施しています。学習を通して学びや感じたことを絵に表現してもらい、廃棄に対する意識を向上してもらっています。



社内

認定職業訓練施設「日吉塾」を設立

滋賀県知事より認定職業訓練実施事業所として認定。訓練科として化学分析基礎講座を設け技術伝承・人材育成など行い、将来は外国人を含め中度人材の育成を目指しています。



社員の学びの場としてゼミナールを実施

「日吉ゼミナール」として社員運用により定期で実施しています。社員の広域視点での学びの場として活用しています。

